

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

調査実施日：令和5年4月18日（火） 参加状況：小学校・義務教育学校6年生 165人 中学校3年生・義務教育学校9年生 192人

伊豆市教育委員会

この調査は、子どもたちの学力を把握するための「教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」で構成されています。この調査結果をふまえ、学校と家庭、地域が連携しながら、子どもたちの学力向上や豊かな心の育成、規則正しい生活習慣の定着をめざしていくことが望まれます。

以下に、伊豆市の子どもたちの姿をまとめましたのでご活用ください。

【教科に関する調査結果】…小学校から確実な基礎力を付けましょう

平均正答率	小学校・義務教育学校6年生		中学校3年生・義務教育学校9年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
R2(現中3の6年時)					
R4	○	○	○	◎	
R5	○	○	○	△	○

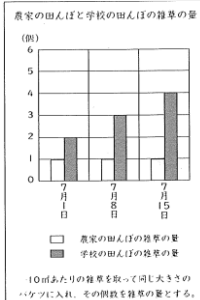
◎：全国より高い
○：全国と同程度
△：全国より低い



R2は新型コロナウイルス感染症対応のため未実施

中学校では今年度、英語も実施しました。本市の子どもたちは、中学校で数学に課題がありました。概ね良好な状況でした。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対応のため未実施だったことから、中学生が小学校のときからの変化を見ることができませんが、小学校では基礎を固め、中学校で確実に学力を身に付けることができるよう、今後も小中の連携や継続性を意識した指導を進めてまいります。

【国語】◇問いを意識しながら、目的をもって文や語句を読み取り要約することがよくできました。 ◆図表やグラフ等複数の情報を用いて自分の考えが伝わるよう書くことに課題がありました。



【カード④】

7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

★小学校国語1-2の問題です。

【川村さんの文章】の口に、次の条件に合わせて、学校の米つくりの問題点とその解決方法について作文をする問題です。

〈条件〉

- ①問題点についてグラフと【カード④】のそれぞれから分かることを書く。
- ②問題の解決方法について【カード⑤】をもとに書く。
- ③60字以上100字以内で書く。

正答率は32.1%。無回答率も5.5%ありました。

誤答の要因として、条件①には2つの条件がありますが、ひとつしか取り上げていなかったり、グラフから分かることと【カード④】から分かることを関連付けてとらえることができなかったりしたことが考えられました。

図表やグラフを用いるのは、示すべきことが分かりやすくなり、相手にとってもよく理解できるものとなるからです。伝える側は、まずは伝えたいことは何かを明確にできるとよいです。そして、図表やグラフにはそれぞれ特徴があるので、場面に応じた図表やグラフを用いるとよいのか考える力を付けたいです。その際、複数の根拠を関連付けて表現すると説得力が加わります。ご家庭で新聞やニュースを見ているときに、分かったことやその感想などを伝え合うことも、こうした力を付ける一助となると考えます。

【数学】◇基礎的・基本的な計算技能は、よく身に付けていました。

◆基本的な図形概念や図形を構成する要素に着目し、図形の性質や計量について考察することに課題があります。

★小学校算数2-3の問題です。

折られた紙を切って開く、という作業から正三角形の性質を理解しているかを確認する問題です。

正答率は28.5%。無回答率も6.1%ありました。

「30」が正答ですが、「40」「45」という誤答が多くありました。この問題では、Aが開く前の角であることを見逃していたり、正三角形を直角三角形や直角二等辺三角形と誤ってとらえたりしたことが誤答の要因と考えられました。

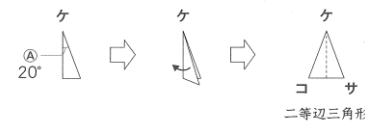
こうした問題では、目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の性質を基に見通しを立てることが求められます。図形は、紙に描くことで平面や立体のイメージをつかむことができますが、配布された端末を利用すると、これまでよりも分かりやすく図形のイメージをもつことができますので、学校でも活用場面を増やしていきます。

ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれちがう大きさにしました。



ゆいな

私は、④の角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



わたる

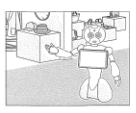
私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするかによりますか。

【英語】◇英語を聞き、聞き手として目的に応じて知りたいことやほしい情報を聞き取ることができていました。
◆自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がありました。

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



★中学校英語8-2の問題です。
ロボットについてブラウン先生が書いた英文を読み、ブラウン先生の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題です。

正答率は19.3%。無回答率も32.8%ありました。
また問題10では、学校行事から紹介したいものをひとつ取り上げ説明する英文を書く問題が出題されました。こちらの正答率も低く、自分の考えを整理し、まとまりのある文章を英文で書くことに課題がありました。
問いに対する書く力の基本は、読んだことに対し自分の考えや賛否をもてるか、自分の意見や主張を支える根拠を明らかにしているか等です。これは英語だけでなく他教科での学習でも必要になる言語活動です。質問紙調査38の「授業では各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行いましたか。」では、伊豆市は静岡県や全国平均を上回っていました。英語に限らず、まずは日本語で自分の考えを根拠立ててまとめることを授業でも意識していきます。

【質問紙調査から分かる伊豆市の子ども】…地域や周りの人と良い関係を築けています

全国や県に比べて高い項目

- 人が困っているときには進んで助ける
- 普通の生活の中で、幸せな気持ちになることがある
- 今住んでいる地域の行事に参加している
- PC、タブレットなどのICT機器を授業でよく使う
- 住んでいる地域について外国の人に知ってもらいたい
- 先生は勉強を分かるまで教えてくれる

全国や県に比べて低い項目

- ▲自分で計画を立てて勉強をしていますか
- ▲1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか
- ▲読書は好きですか

【クロス集計からわかる正答率が高い子どもの傾向】

- ◎早寝早起き、毎日きちんと朝食を摂取している子
- ◎自分で計画を立てて勉強している子

基本的な生活習慣は、自分で考え実行しようとする力を育てます。

- ◎自分には良い所があると考えている子
- ◎いじめはどんな理由があってもいけないと考えている子

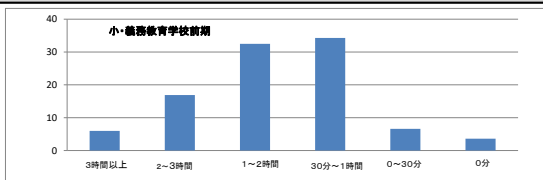
家庭や地域の皆さんと一体となり、子どもたちの自己肯定感を育てていきます。

- ◎読書が好きな子
- ◎分かったこと、また分からなかったことを見直し次への学習に生かしている子
- ◎友だちのさまざまな考えに触れることが楽しいと考えている子

「生涯学び続ける力」「創造する力」につながります。

【家庭で大切にしたいこと3点】

①基本的な生活習慣や学習習慣を確立しましょう

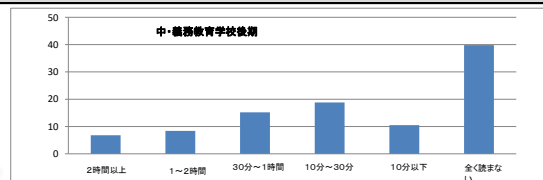


1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

中学生もほぼ同様でした。小学校の頃から計画的な学習をしましょう。SNSや動画の視聴も「〇分以内」と家庭内でルールを決めてみてはいかがでしょうか。

自己肯定感を高めるひとつにほめることが挙げられます。ただほめるだけではなく「やったことをほめる」「気持ちを伝える」「やったことで変わったことを具体的に伝える」を意識するとよいそうです。

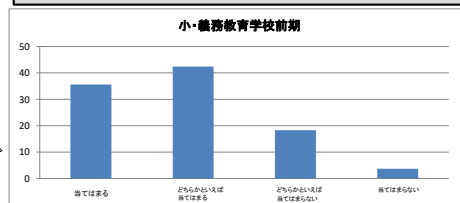
②本や新聞に親しみましょう



1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

残念ながら中学生では4割弱のお子さんが活字に触れていませんでした(小学生で2割弱)。新聞の見出しにざっと目を通し気になった記事を読んだり、図書室で気になるタイトルを探してみる等から始めてみてはいかがでしょうか。本や新聞を窓口豊かな世界へとつながることを期待します。

③子どもの自己肯定感を高めましょう



自分には、よいところがあると思いませんか。

